



きらめく風



すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。6年生の学力調査結果についてまとめましたのでご報告します。

令和7年度 6年 全国学力・学習状況調査結果 (令和7年4月17日実施)

1 国語 平均正答率 (%) *網掛けは都の平均を上回った項目です。

	国語全体	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化 に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
旭町小	68	73.3	62.8	86	70.5	72.1	58.7
東京都	70	77.9	66.9	83.8	69.9	72.4	61
全 国	66.8	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5

「読むこと」において、「文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる」設問においての正答率が低かったため、資料の読み取りや図や表との関連を調べたり見付けたりする学習を、国語の学習だけでなく各教科で重点的に扱っていきます。「言葉の特徴や使い方に
関する事項」については、正しい漢字を書き直す問題の正答率が低かったため、漢字ドリル等を活用して、文の中で正しい漢字を書く指導を繰り返していきます。

2 算数 平均正答率 (%) *網掛けは都の平均を上回った項目です。

	算数全体	学習指導要領の領域				
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	Dデータの活用
旭町小	65	70.3	62.2	59.3	65.9	67.9
東京都	64	68.3	61.2	60.5	64.9	67.6
全 国	58	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6

「B図形」では、「コンパスを用いて平行四辺形を作図する」設問の正答率が低かったため、図形全般の作図の復習に取り組みます。「C変化と関係」では、「伴って変わる二つの数量に着目し、必要な数量を見付け、立式したり言葉で説明したりする」設問の正答率が低い結果でした。伴って変化する二つの数量を図や表から読み取る演習や、問題文からキーワードを見付けて立式したり、言葉で説明したりする学習を重点的に扱います。

3 理科 平均正答率 (%) *網掛けは都の平均を上回った項目です。

	理科全体	A区分		B区分	
		「エネルギー」 を柱とする領域	「粒子」を柱と する領域	「生命」を柱と する領域	「地球」を柱と する領域
旭町小	62	54.7	61.2	48.8	72.5
東京都	60	49.9	53.7	54.1	69.1
全 国	57.1	46.7	54.1	52	66.7

「エネルギー」を柱とする領域では、「身の回りの金属について、電気を通す性質か、磁石に引き付けられる性質かそれぞれの性質を問う」設問の正答率が極端に低い結果でした。また「生命」を柱とする領域では、ヘチマの花のつくりや受粉についての知識不足が目立ちました。そのため、復習プリント等で既習事項の知識の定着を図っていきます。「粒子」を柱とする領域では、全ての設問において都の平均を上回る結果でした。

4 児童質問紙

質問紙では、「朝食を毎朝食べていますか」「毎日、同じ時刻に寝ていますか」等の生活習慣に関する質問や「将来の夢や目標をもっていませんか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」のような自己肯定感に関する質問、学校の学習や友達に係る質問等、計71個の質問に回答しました。

- (1) 東京都比で約10ポイント程度の差があり、特徴的だった結果についてお伝えします。
(「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童の割合%)

質問項目	本校	東京都
理科の勉強は好きですか	90.7	78.2

東京都比で12.5ポイント高い結果でした。今後も、児童にとって楽しく、分かりやすい理科の授業を展開していきます。また、科学実験教室等の専門的な外部人材を活用した活動を設定し、低学年のうちから理科や科学への興味関心を高めたいけるようにします。

質問項目	本校	東京都
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	95.4	83.7

東京都比で11.7ポイント高い結果でした。「分かる授業・楽しい授業を展開する」ことを学校経営の方策に示している本校として、大変に嬉しい結果となりました。しかし、4.6%の児童にとっては「学習内容が分からないまま」になっている事実を真摯に受けとめ、今後、さらにきめ細やかな学習指導と丁寧な学習支援を行っていきます。

質問項目	本校	東京都
タブレット等のICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツール等を使って情報をまとめる)ことができると思いますか。	62.8	73.8

東京都比で11ポイント低い結果でした。一方で、ICT機器を使ってプレゼンテーション(発表のスライド)を作成できると回答した児童は90.7%(都比+8ポイント)、ICT機器を使って分からないことを調べることができると回答した児童93.5%(都比+2.8ポイント)でした。発表資料作成や調べることはできるが、図や表、グラフ等を用いて情報を整理することが苦手なことが判明しました。今後は、図や表、グラフを用いて情報整理ができるように、算数や社会、総合的な学習の時間等の学習において、重点的に取り組んでいきます。

質問項目	本校	東京都
読書は好きですか。	79	69.7

東京都比で9.1ポイント高い結果でした。学校においては、週2,3回の朝読書、年2回の読書旬間、ボランティアによる読み聞かせ、光が丘図書館によるブックトークやお話会、おすすめの本の紹介活動等、読書活動に力を入れて取り組んでいます。ご家庭では読書をする姿が見られないかもしれませんが、学校では読書をする機会が保証されているため、本を読んでいる姿がよく見られます。今後は、光が丘図書館が提供する「デジタル図書館」の利用も含め、より充実した読書環境を整えていきます。

質問項目	本校	東京都
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	100	92.2

東京都比で7.8ポイント高い結果であるとともに、肯定的な回答が100%でした。これは担任をはじめ、専科の教員や講師が、いかに児童のよさを認め、励ましているかが分かる結果であると考えます。これからも、個性豊かな児童一人一人への適切な指導と支援を継続し、自己肯定感や自己有用感がさらに育まれていくように、全力で教育活動に取り組んでまいります。

質問項目	本校	東京都
困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	62.8	70.9

東京都比で8.1ポイント低い結果でした。高学年に進級するにつれ、相談相手は大人から友達に移り変わっていくことも確かな事実です。しかしながら、37.2%もの児童が相談をしづらいと感じていることについて、学校として重く受けとめています。スクールカウンセラーや心のふれあい相談員が、より身近に感じられるように関わりを増やしていきます。また、学校にいる教職員全員が、いつでも児童の話を聞いてくれる存在であることを繰り返し伝えていきます。